

日本家族看護学会研究促進委員会主催  
第2回家族看護学研究セミナー  
「家族間の暴力に看護師はどう関わるのか」

開場日時：2018年2月12日（月）13:00-16:10

場所：東京大学本郷キャンパス 医学部教育研究棟鉄門記念講堂

基調講演：「家族間の暴力の予防：子どもと家族の多重被害」

Edward, Chan Ko Ling 先生（香港理工大学応用社会学教授）

パネルディスカッション：

「児童虐待、パートナーからの暴力、高齢者虐待の現状と課題～必要な家族支援とは～」

パネリスト：岸恵美子先生（東邦大学看護学部教授）

渡辺雅子先生（北里大学大学院医療系研究科博士課程）

西山さつき先生（NPO 法人レジリエンス 代表）

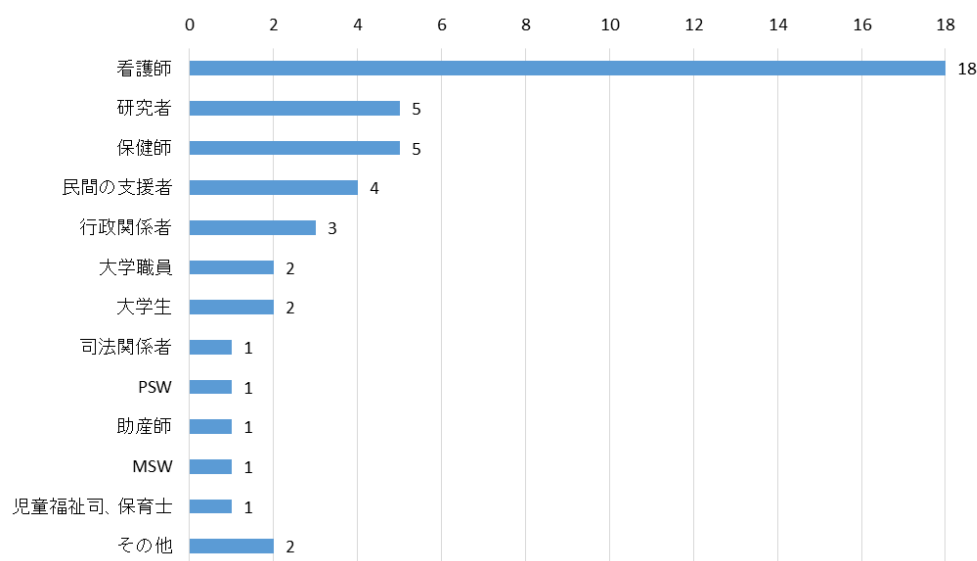
座長：上別府圭子（東京大学大学院医学系研究科教授）

キタ幸子（東京大学大学院医学系研究科助教）

参加人数は58名（会員数31名：、非会員数：27名）であり、アンケートに答えてくださった人数は35名であった。まず基調講演では Edward, Chan Ko Ling 先生が「家族間の暴力の予防：子どもと家族の多重被害」というテーマで、IPVを中心とした最新の研究やプロジェクトについてお話しいただいた。シンポジウム「家族間の暴力の予防：子どもと家族の多重被害」では、渡辺先生より児童虐待を防ぐ支援者のアプローチについて、介入困難な家族との関わり方に関するご講演いただき、次に西山先生より DV 被害を受けた母子への支援についてお話しいただいた。最後に岸先生より高齢者虐待の現状と課題について、必要な家族支援をご講義いただいた。その後、臨床看護師、研究者、行政、司法関係者等の多職種の参加者と共に、積極的なパネルディスカッションを通し、継続的な支援や介入方法に関して理解を深めた。

以下、アンケート結果を報告する。

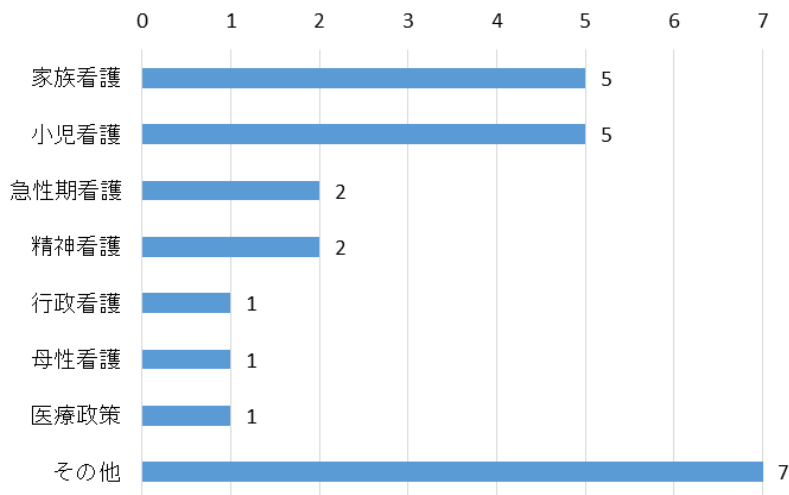
## 1. 職種（複数回答）



職種に関して、回答者は30名(86%)。

看護師が最も多く、次いで研究者、保健師であった。その他は保育園関係者(2名)であった。

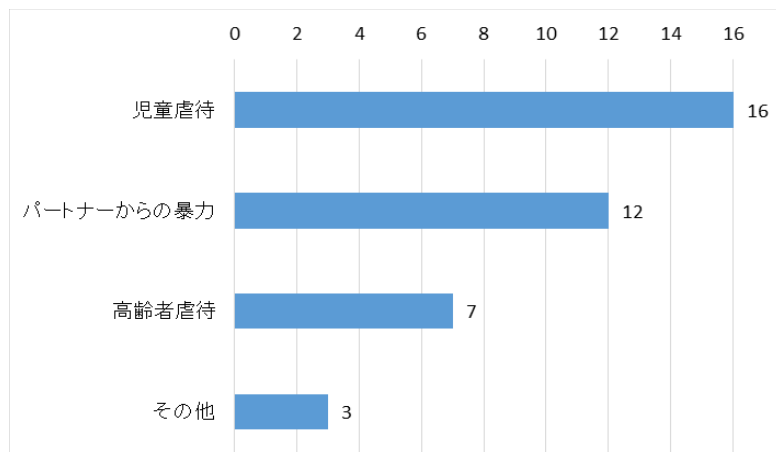
## 2. 専門領域（複数回答）



専門領域に関しては、回答者は 21 名(60%)。

家族看護、小児看護が最も多く、次いで急性期看護、精神看護であった。その他では、周産期看護、手術室看護、保育園関係、子育て支援、男女共同参画、社会福祉の回答であった。

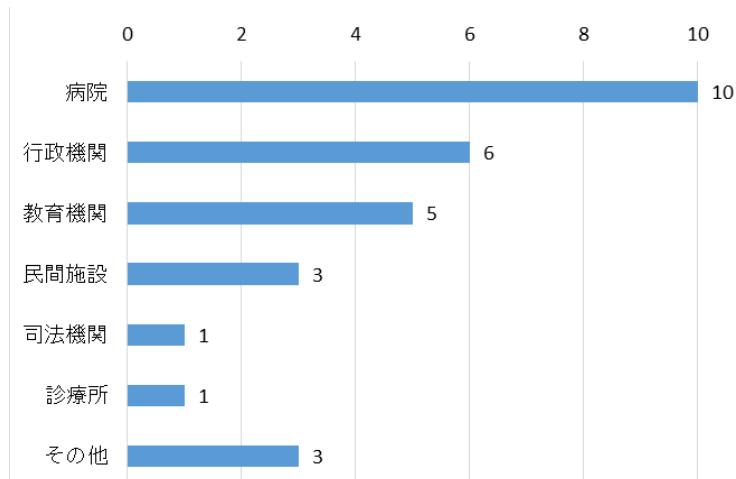
## 3. 関わられている領域（複数回答）



関わられている領域に関しては、回答者は 23 名(66%)。

児童虐待が最も多く、次いでパートナーからの暴力であった。その他では、精神科における暴力(CVPPP トレーナー)、母子・成人保健の回答であった。

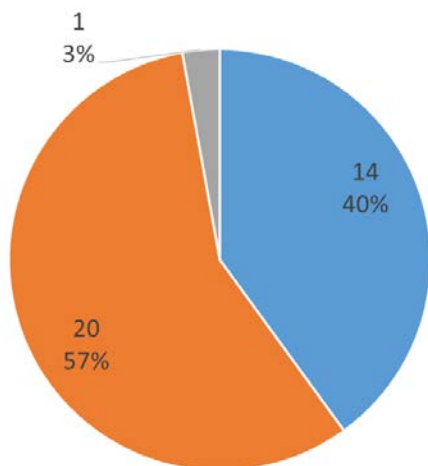
## 4. 所属（複数回答）



所属に関して、回答者は 28 名(80%)。

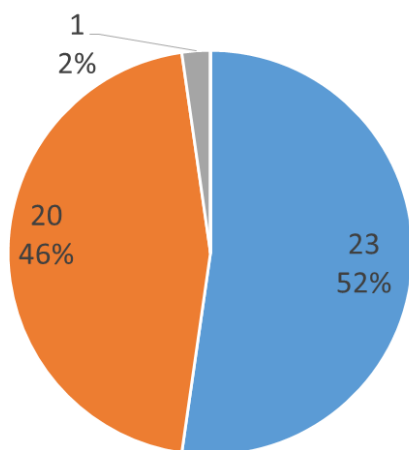
病院が最も多く、次いで行政機関、教育機関であった。その他では、保育園(2名)、GNRC の回答であった。

問1 今回の企画全体に対する印象はいかがでしたか。



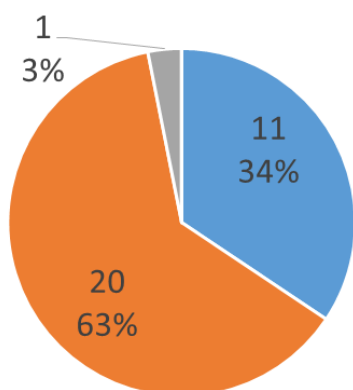
■とてもよかった ■よかった ■ふつう ■悪かった ■とても悪かった

問2 今回の企画の内容は関心のあるものでしたか。



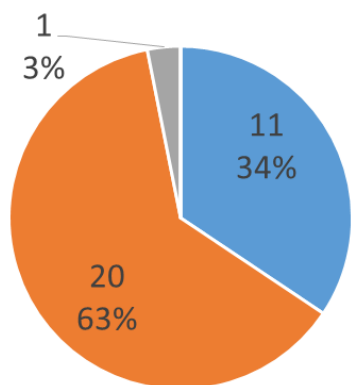
■とても関心があった ■関心があった  
■どちらでもない ■関心がなかった  
■全く関心がなかった

問3 今回の企画の内容はわかりやすいものでしたか。



■とても分かりやすかった ■分かりやすかった  
■ふつう ■分かりにくかった  
■とても分かりにくかった

問4 「家族間の暴力」に関して、理解できましたか。



- よく理解できた
- 理解できた
- どちらでもない
- 理解できなかった
- 全然理解できなかった

問5 今回の企画内容で、もっと詳しく知りたい内容がありましたか。

事例などの具体例
子どもや高齢者への虐待に対する介入でうまくいった事例を知りたい。助産師や保健師、または看護師が父親に対して行っているケア・介入・情報提供について、又その介入等の子どもに対する父親の暴力における効果について。
具体的な関わり方や事例。
具体的な事例に対する支援内容。
家族内の病理(家族は介入を嫌がる中で)にどのように介入できるのか。具体的なケース紹介があるとよかった。
多重暴力加害者への支援の成功例など。どうすれば連鎖を断つことができるのか。
他機関、多職種連携が重要とありましたが、その実践(実例)について詳しく知りたいと思います。
IPV と CAN を抱えた家族への介入方法(タイミング・誰にまずフォーカスするのかなど)
妊娠期の支援について
妊娠中からの暴力、虐待の予防についてもっと知りたいです。
児童虐待、特に妊娠中からの関わりについて。
性暴力について
性暴力。
子どもへの性暴力への部分。
その他
家族間の暴力は根深いものがあると思うので、負の連鎖を断ち切ることが少しでもできることがあるのなら、知りたい。
虐待問題の予防あるいは介入における多職種連携について。
家庭内暴力及び世代間での DV 連鎖の防止策。
各国の現状とそれに伴う家族内暴力の違い、また、加害者への支援内容があがりました。
今回のパネルディスカッションは発達段階別の話となり、多産被害や連鎖など世代を超えた被害についていかに取り組んでいくかが気になります。家族支援の考え方は、どの世代においても共通なのですが、種々のプロフェッショナルをつなぐという視点で知見を得たいと思います。

感想など
時間が足りず最後の方が駆け足になってしまったのがとても残念です。1人1人の先生方にもっと詳しく話をしてほしかったです。
今回のセミナーで家族間の暴力に関し理解を深めることができました。
せっかく貴重なお話をされるスピーカーが4名もいらしたので、もっと時間があるとよかった。パネルディスカッションとして相互の意見交換も聞きたかった。
家族間暴力について、日本では行政として子どもは児童相談所、高齢者は別の機関で対応しているが、今回のセミナーにおいて包括的な支援が必要ということを学び、その為には、どのような介入・対応が望まれるか、考えてみたいと思いました。
せっかくの機会にも関わらず、空席が多く非常に残念でした。もっとイベント周知する、修士・学部・学外の人も対象にするなどしてはいかがでしょうか。

問6 今後研究促進委員会の企画で希望されるテーマがございましたら、ご記入ください。

介入・アプローチ方法
乳幼児期の母を支えるシステム構築への取組み。性虐待(刑法改正に関する展開として)の保健看護面からのアプローチ。
支援介入に関するテーマ。
第三者からは問題・課題であると考えられるが、問題意識のない家族に対して訪問看護師が行っているケア。どのように問題に気づいてもらうか、どのような介入が効果的なのか。問題や課題については特定いたしません。
妊娠期からの切れ目のない支援。思春期からのアプローチの在り方など。
家族への介入、人間関係の構築についての介入。
その他
より具体的な事例に係るケーススタディー中心のDV予防及び回復に関する企画を希望致します。
医療と行政の連携について。
急性期における家族看護のあり方を学びたいです。